

## 第5回 伊勢市公共施設等総合管理計画検討委員会議事録

1. 日時 平成27年9月17日 木曜日 午後7時～午後9時10分
2. 場所 伊勢市役所 本館 東庁舎4階第3会議室
3. 出席者
  - (1) 委員出席者  
筒井委員、奥出委員、河村委員、加藤委員、森本委員、大西委員
  - (2) 市出席者  
中川情報戦略局長、浦井情報調査室長、中川情報調査係長、中村主事
4. 議事
  - (1) -1 伊勢市公共施設等総合管理計画（案）について

市

- ・計画（案）の前回からの修正点について説明した。

委員

- ・施設類型別と地域別の記述については、前のままであるがどうか。また、「原則、新たな公共施設の建設は行なわない」という記述がそのまま残っていることについても説明をいただきたい。

市

- ・地域別計画を作るのではなく、施設類型別計画を策定する際に、地域別の考え方も加味するという点を前回ご説明させていただいたところである。文章の修正が間に合っていないことについては、申し訳ありません。

委員

- ・「原則、新たな公共施設の建設は行なわない」という記述についてはどうか。今後、どうしても建設が必要な施設は出てくるはずであるから、あえてそのように書く必要があるのか疑問に思う。削減を目的とした計画であるので、そこまで記述する必要はないのではないか。

市

- ・「原則、新たな公共施設の建設は行なわない」という記述は、市のスタンスの様なものを示させていただいた。新規は原則作らないが、必要なものは議論して作るということ。更新は別であるが。

委員

- ・「原則、新たな公共施設の建設は行なわない。」という記述は必要だと思う。

委員

- ・「原則作らない」は、「作らない」と読み取れる。ダメ押しをしているように感じる。

市

- ・この計画が、既存の施設のことに特化すれば記述しなくても良いと思う。

#### 委員

- ・ p28 の「③総量規制の範囲内での新規整備方針」の中に、「原則、新たな公共施設の建設は行なわない」との記述があり、その後に新規施設の整備について記述があるので良いのではないか。

#### 委員

- ・新規施設を作れるのであれば、記述を削除しておいた方がよいと思う。統廃合で新たな施設の建設も必要になってくると思う。

#### 市

- ・「原則、新たな公共施設の建設は行なわない」という記述を削除させていただく。補足説明をさせていただくと、書き手側としては「新規」とは新たな用途の施設をイメージしており、統廃合や複合化で施設を2個1、3個1で建設することは「更新」の延長だと考えていた。意図が上手く伝わらず申し訳ない。

#### 委員

- ・ p28 に「除却」の記述を入れた方がよい。また、 p29 の「B使い続けない f 不要施設として除却する」の「不要」は取った方がよい。不要と書くことで、要るのだという誤解を受けるかもしれない。

#### 委員長

- ・「廃止」、「除却」、「廃棄」が混在しているので使い分けをしてもらった方がよい。

#### 委員

- ・「廃棄」は、壊すこと。

#### 委員

- ・「廃棄」と「除却」は、同じこと。「廃止」は、サービスを止めること。

#### 委員

- ・「目標達成のための手段」、「目標達成の手段」、「目標達成のための手順」は、書き分けがされているのか。

#### 市

- ・「目標達成のための手段」に統一させていただく。

#### 委員

- ・ p25 取り組みイメージに、「⑥廃止」、「⑦譲渡」を追加してはどうか。「④運営手法の見直し」にある譲渡とは別に、売却して自由に使う場合を書き分けてほしい。言葉は譲

渡でもよいが。

市

・6章は、削除して整理したい。

(1) - 2 削減目標達成のためのシミュレーション（イメージ）について

市

・削減目標達成のためのシミュレーション（イメージ）について説明した。

委員

・小中学校の適正化については、総連合自治会でも跡地利用について話題になっていた。そのまま使用されてはいけないので、早めに考えてほしい。教育の方から先に「跡地は社会教育に利用します。」などと出してしまうと困るのではないか。

市

・利用目的が変わっただけというのでは意味がない。壊して総量を減らすことができればよいが、学校のような大きな建物が残っていくと困る。

委員

・地域に上手く筋が通るような努力をしてほしい。我々も協力しますが。

委員

・シミュレーションパターンは、例を挙げているので余計に分かりにくくなっている。まず、耐用年数から施設をピックアップして、そこから用途を見ていくのか。それとも既存計画から見ていくのか。1つのパターンではなくて、実際には絡み合っている気がした。

委員

・目標値に対してシミュレーション結果が半分に満たないのではショックが大きい。もともと、目標の数字がこれで良いのかというのがあるが、試算ソフトは抛り所でもあるので、それを使うのはよい。また、目標達成はインフラの方も難しいと思う。

市

・既存計画と人口推計の整合が取れていない部分がある。市営住宅や学校などの既存計画の整合をとっていかないといけないと思っている。

委員

・人口ビジョンに合わせて、修正を考えていく必要があるというのは、計画（案）の目標値を変えるということか。

市

・そうではなく、人口ビジョンと既存計画の整合をとる必要があると考えている。

委員

・人件費の削減との絡みは考えているのか。

市

・学校を統廃合すれば、給食調理の人件費などが浮いてくると思うが、ここには入れていない。更新に充てていく費用を、人件費を含めて考えていく必要があると思う。

委員

・それは計画（案）には書かないのか。

市

・書き加えていきたいが、仮定が難しい。

委員

・自治会指定管理施設は、使う場合に市から借りるのは使いにくいので、払い下げてほしいという考えもある。また、使い勝手の良いように増築もしたい。こういった場合は、無償譲渡は早くできると思う。

委員

・目標達成に向けては、今後更なる努力が必要であると計画（案）に書いてはどうか。

市

・そうならざるを得ない。目標値を載せるか載せないかについては、他に考えを持ち合わせていない。

委員長

・目標値は達成可能な数字の方がよいのではないかと。資産ソフトの単価設定のこともある。

市

・単価設定については、現在、建築費が高騰していることもあり、法外な金額でもないとのこと。ただし、建物の構造によっては大きく違うというのはある。例えば、ごみ処理施設は実際にはプレハブであったりするので、この単価設定では高くなる。

委員

・加重が知りたい。バイアスがどのくらいなのか見ていきたい。

委員

・これからは、固定資産台帳で減価償却も必要になってくるのではないかと。

委員

・目標を変えるのはおかしい。試算ソフトであっても目標を出しているのに、目標を変えると根底から崩れる。

市

・試算ソフトを使わずに自前で計算できれば良いが、それが難しいので全国的に試算ソフトを使用しているのが現状である。

委員

・900億円を達成するためには、どうなるのかは出せるのか。

市

・計算はできる。

委員

・プランA・B・C・D・Eみたいなものを作れるか。Aは、市民のみなさんに不都合はあるが達成できる。学校をいくつにすればよいとか。

委員長

・それを目標とするか。委員のおっしゃるように、それを参考にして別の目標を立てるか。

## 2. その他

特になし